

授業科目名	音楽療法各論 I	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	長江 朱夏	単位	2	年次	2

＝授業のテーマ及び到達目標＝

- 子どもから青年期にかけての対象者への音楽療法の取り組みについて理解を深める。主に知的障害、発達障害、自閉症スペクトラム障害、身体障害などの障害や特性についての知識を深め、彼ら／彼女らに対する音楽活動の意義について考える。
- 音楽療法の目標設定、書き方、アセスメントに必要な知識を養う
- 対象者への関わり方、音楽ならではの関わり方などをワークショップにて学ぶ

＝履修の条件と学習の方法＝

講義形式を中心として進めるが、セッションを想定したワークショップも行うため、積極的かつ意欲的な姿勢が求められる。講義では、オーディオや映像による臨床事例の紹介を含む。

音楽療法総論 I・II を受講していること。

＝授業の概要＝

日本音楽療法学会で認定する音楽療法士（補）受験資格を取得する為に必要な科目。

子ども期から青年期の様々な障害について、障害や特性を理解し、音楽ならではの関わりや、彼らにとっての音楽活動の意義を考える。音楽療法の仕事において重要となるアセスメント、目標設定、計画などの知識を身につけていく。ワークショップでは、音楽療法士の関わり方のヒントやテクニックを学ぶ。

＝授業計画＝

※以下の内容は、スケジュール変更を伴うこともある。

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認、音楽療法と子どもの領域について
- 2回 臨床目標の書き方（Music in Therapy, Music as Therapy）、臨床における関係作りについて
- 3回 発達過程とニーズを見極める
- 4回 動きと音楽療法
- 5回 コミュニケーションの促進と音楽療法
- 6回 コミュニケーションの促進と音楽療法（自閉症スペクトラム障害）
- 6回 認知機能と音楽療法（学習障害）
- 7回 認知機能と音楽療法
- 8回 様々な臨床場面
- 9回 情緒と音楽療法
- 10回 自己表現と音楽療法
- 11回 社会性の促進と音楽療法 グループ音楽療法①
- 13回 「ミュージックチャイルド」
- 14回 活動の発表
- 15回 まとめ
- 16回 期末テスト

＝テキスト（必携）＝

- | | |
|--|---|
| <p>① 書籍名：音楽療法入門 I、II
著者名：デイビス 他（著）栗林文雄（訳）
出版社：一麦出版社</p> <p>② 書籍名：音楽療法入門 III
著者名：デイビス 他（著）廣川恵理（訳）
出版社：一麦出版社</p> | <p>③ 書籍名：ミュージックセラピーハンドブック
著者名：ハンサー（著）、長坂希望（訳）
出版社：エー・ティー・エヌ</p> <p>その他必要な資料は授業内で配布する。</p> |
|--|---|

＝参考書・参考資料（必携）＝

- | | |
|--|--|
| <p>① 楽譜：Learning through Music
著作者：Herbert Levin and Gail Levin
出版社：Barcelona Publishers</p> <p>② 楽譜：A Garden of Bell Flowers
著作者：Herbert Levin, Gail Levin
出版社：Theodore Presser Company</p> <p>③ 楽譜：Fun for Four Drums
著作者：Paul Nordoff, Clive Robbins
出版社：Theodore Presser Company</p> <p>④ 楽譜：Themes for Music Therapy
著作者：Michele S Ritholz, Clive Robbins
出版社：Carl Fisher</p> | <p>⑤ 楽譜：More Themes for Music Therapy
著作者：Michele S Ritholz, Clive Robbins
出版社：Carl Fisher</p> <p>⑥ 子どものためのプレイソング
ポール・ノードフ、クライブ・ロビンズ
音楽之友社</p> <p>⑦ 著書名：音楽する人間（DVD付）
著作者：クライブ・ロビンズ（著）、生野里花（訳）
出版社：春秋社</p> <p>⑧ 著書名：障害児の音楽療法—ノードフ・ロビンズ
音楽療法の質的リサーチ（付録CD2枚組付）
著作者：ケネス・エイゲン（著）、中河豊（訳）
出版社：ミネルヴァ書房</p> |
|--|--|

※ 授業内で適宜紹介していく

＝成績評価の方法と評価の基準＝

- ・ 出席点（出席5点、欠席0点）で総合成績の30% 反映させる。
- ・ レポートを2題提出する。1題は1～5点、もう1題は1～10点で内容を評価し、合計を総合成績の15%に反映させる。
- ・ 授業で学んだことを基に活動を考え授業内で発表する。また活動内容に合わせ、作曲をすることが含まれる。内容と発表を総合的に1～15点で評価し、総合成績の15%に反映させる。
- ・ 期末テストの成績は総合点の40%とする。

＝その他＝